

こちら特報部

「掲載前に記事を全文見せてほしい」。桜を見る会で何かと話題の新宿御苑（東京都新宿区）が先日、「こちら特報部」の取材に条件を付けてきた。取材歴20年前後のベテランが居並ぶ特報部でも、公的機関か

らこんなことを言われた記者はいない。なぜ、あり得ない条件を持ち出したのか。それにしても取材や表現活動を巡る最近の世の中は息苦しい。

(中沢佳子、大野孝志)

参 庶

平方以上の3LDKの新築なら約四十万円、五十六平方の1LDKでも三十万円近くはする」と話した。

月100

都心の超一等地に位置する参院清水谷議員宿舎（手前中央、奥はホテルニューオータニ）東京都千代田区で、本社へ「おおるる」から

税金の

は納得できず、政治に関心をなくしていく。もった議論を深めていくべきだろう」と主張した。

「ケースの追跡

新宿御苑「強制はしない」

取材をしたのは十一月十二日。翌十三日、「桜を見る会」に一言「騒動の舞台 新宿御苑で聞く」の見出しで掲載した。御苑を訪れた記者に聞くと、そこにいた職員は丁寧に対応してくれたそう。記者は「急だったのに、感謝している」と話している。

憲法は検閲を禁じている。公的機関にチェックさせると言われ、応じる記者がいると思えない。三週間近く過ぎた十一日、改めて事務所に質問した。電話口の女性は「ケース・バイ・ケースです。でも、

間違った情報が広がってはいけませんから」。百歩譲ってそうだとしても、御苑側が答えた部分以外も見るなんてあり得ない。重ねて問うと「ちょっとお待ちください」。電話の相手が男性に変わった。

事務所庶務科の見川峻さんが説明する。「開園時間や固有名詞を確認するため、特に印刷物は事前に確認してほしいと伝えている。新聞と雑誌、社によっても対応は違う。断られることもある。検閲になるので強制はしない」

「省としての対応とは違う」。川久保氏は御苑の対応を否定した。「お願いベイスならあるかもしれない。ただ、省の政策関連も含め一般記事を見せろと言うことはない。川久保氏はその理由を「事前検閲になるので」と説明した。

ただ、例外が一つあると。大臣の個別インタビューだ。「掲載まで時間がかかることが多い。発言で触れたデータが最新の数値で変わることも、事実関係、言葉の確認の必要もある。行数の関係で発言が切り取られて違うニュアンスになることもある」

掲載前の確認を条件にインタビューの調整をするという。そして川久保氏は苦笑しながら「今の（小泉進次郎）大臣になってからは、特にお願いしている」と話した。

「事前に記事見せる」仰天要求 その後

「メールで取材の趣旨と質問内容を送ってもらいたい。それから、事前に原稿を見せることが回答の条件だ」。電話口の女性はそう答えた。なぜそんな必要があるのかとたずねると、「記事に御苑の歴史や開園時間などが書かれる場合、事実確認のためにお願いしている」とのことだった。



高層ビルが立ち並ぶ都心で、四季の美しさが満喫できる新宿御苑

でも…大臣インタビュー例外？

「間違った情報で多くの問い合わせがきて、対応に困ったこともある。窓口が定型の対応をしてしまっただ」。桜を見る会の影響でもなく、現場レベルで行き届かなかったという。こういつときの決まり文句だ。釈然としないので、上部機関の環境省に突撃し

た。大臣の個別インタビューだ。「掲載まで時間がかかることが多い。発言で触れたデータが最新の数値で変わることも、事実関係、言葉の確認の必要もある。行数の関係で発言が切り取られて違うニュアンスになることもある」

Table with columns for stock prices, including 'マサーズ' and '11日'.

環境省「省の対応と違う」

掲載前の確認を条件にインタビューの調整をするという。そして川久保氏は苦笑しながら「今の（小泉進次郎）大臣になってからは、特にお願いしている」と話した。

Table with columns for stock prices, including 'マサーズ' and '11日'.

こちら特報部

取材や表現活動 増す息苦しさを

首をひねる報道対応はほかにある。

菅義偉官房長官は四日の会見で、桜を見る会の出席者名簿についての説明に窮し、職員の名簿を待つことが何度もあった。内閣府は六日、「桜を見る会」の取材窓口を案内した。

それより前の二日、特報部の記者が内閣府に取材を申し込んだ時は、交換台の女性が「担当者が外出中で対応できない。戻り時間も分からない」と門前払い。説明しようという気すらうかがえなかった。

話を表現活動へと広げると、行政のおかしな対応はまだまだ出てくる。もちろん、その代表は国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の「表現の不自由展・その後」だ。展示で抗議や放火予告が相次いだ後の九月、文化庁は芸術祭への約七千八百万円の補助金を不交付を発表した。

直後に「日本芸術文化振興会（芸文振）」が、助成金の交付要綱を改めた。芸術や文化の振興活動に助成する文化庁所管の独立行政法人だ。

新要綱では、交付を取り

▶内閣府「多忙」で記者門前払い

▶映画助成「公益性」で取り消し

▶政権上層部に忖度「過剰防御」

消せる場合として「公益性の観点から不相当と認められる場合」を明記した。不自由展と歩調を合わせたと思えないが、芸文振の裏山晃生企画調査課長は「無関係」と強調する。

ちなみに、芸文振側の説明では、一千万円の助成が内定していた映画「宮本から君へ」を巡るトラブルが改定のきっかけだった。出演者の一人がピエール・瀧・元被告。麻薬取締法違

反て執行猶予付きの有罪判決を受けた。芸文振が判決後、制作会社スターサンズ側に助成の辞退や再編集を持ち掛け、応じてもらえなかったため取り消した。その後、要綱を改定した。



◎「表現の不自由展・その後」会場で作品について議論する来場者ら。奥は「平和の少女像」=10月、名古屋市内で ◎記者会見する菅義偉官房長官（中央）=11日、首相官邸で

同社の河村光庸社長は怒っている。「配役は映画表現の根幹。それが理由の不交付は表現の自由を制限し違憲、違法」として、提訴する構えだ。「助成金が欲しいわけではない。憲法軽視の大きな流れへの抵抗です」

外務省は十月末、オーストリア友好百五十周年のウィーンでの芸術展で、大使館公認を取り消した。茂木敏充外相は会見で「相互理解と友好促進という要件を満たしていない。作品の表現の自由に関する評価を行うものではない」と説明した。ただ、取り消しの前に、ネット上で「展示が反目的だ」と批判されていた。

こんな流れはしばらく前から始まっていたと言っている人も。不自由展に天皇制を扱った絵画を出展した小泉明郎氏（@みは、六年ほど前に開かれたイタリアでの展覧会を振り返る。

外務省所管の独立行政法人「国際交流基金」が関わっていた。映像作品の「慰安婦、南京大虐殺」という言葉が削ってほしい」と、基金の要望として学芸員から告げられたという。

小泉氏は「議論を投げかけるのが芸術の大きな役割。なのに、調和を重んじる今の社会では、先回りし

て問題を起すことを止めてしまおう。芸術はプロパガンダに利用されやすく、政治と距離を置かなければならない」と語る。

自由なはずの報道や芸術に役所が横やりを入れるのは、なぜなのか。

「役所はなるべく議論を起さないようにするのが仕事。芸術や取材との間には、もともと緊張関係がある」と東京大大学院の明戸隆浩特任助教（社会学）は語る。

そして、明戸氏は「もめ事の原因がネットやSNSで可視化されるようになった。国や政権の印象を操作したい上層部の願望を現場が忖度するあまり、過剰に防御する。事なかれ主義で主体性や自主性がない現場は、上層部が強く押し出すイデオロギーに、結果的に協力することになる」と指摘した。

「遺族に配慮して」と被害者を匿名にする役所が増えている。台風19号の時は「遺族取材をしないなら」という条件で報道各社に知らせたところもあった。どちらも取材制限だ。この時、義母を亡くし、意向確認もなく匿名とされた。「遺族」は、面倒を避ける口実といえる（裕）

テックメモ

「遺族に配慮して」と被害者を匿名にする役所が増えている。台風19号の時は「遺族取材をしないなら」という条件で報道各社に知らせたところもあった。どちらも取材制限だ。この時、義母を亡くし、意向確認もなく匿名とされた。「遺族」は、面倒を避ける口実といえる（裕）

Table with multiple columns of stock market data, including company names, stock prices, and market indices. Includes a small table for 'テックメモ' (Tech Memo) on the left side.

話題の発掘

2019.12.12

原研11 其準備格